



健康社会学研究会

ニューズレター No.70

発行：健康社会学研究会

事務局：〒164-8530 東京都中野区中野 4-21-2 帝京平成大学 現代ライフ学部 人間文化学科（担当 森川洋）

FAX 03-5860-4945 E-mail : h.morikawa@thu.ac.jp

ニューズレター NO.70/2014年3月 編集担当：松岡正純

新運営委員等の選出のお願い

現運営委員が任期満了（平成 23 年度～25 年度）を迎えます。会則第 7 条に基づき、新運営委員（平成 26 年度～28 年度）の選出を行います。

下記により、新運営委員等のご推薦を宜しくお願い申し上げます。

健康社会学研究会 代表 松岡正純

会員名簿より、推薦はがきに運営委員5名、監事1名を記入し、4月 10 日（木）までにご返送ください。（会員名簿及び推薦はがきは同封しております）

<現運営委員>（13名）

池田康幸、小山修、斎藤恭平、斉藤進、白子純子、杉田秀二郎、助友裕子、鈴木茜、臺有桂、高澤みどり、松岡正純、森川洋、渡辺多恵子（五十音順）

<現監事>（2名）

田中久子、林二士（五十音順）

1 月 月例会報告

日時：2014年1月18日（土）15時～17時

場所：日本子ども家庭総合研究所

テーマ：ダイバーショナルセラピー（DT）における SONAS セッションの実践

報告者：岩本義浩氏（植草学園短期大学福祉学科）

オーストラリアの高齢者施設、障害者施設、病院、刑務所等々において導入されたダイバーショナルセラピー（以下、DT という）の考え方をもとにした実践活動について報告された。DT は「全ての人々が主体的に生きることを楽しむ」という考え方を反映させたものである。日本では、デイサービスや施設サービスなど、高齢者の福祉サービスの展開過程に

において導入されているが、オーストラリアのように活動主体者が国家資格化されているわけではなく、広く普及されていないのが現状である。そのような中、DT の考え方を反映させたプログラムである SONAS セッションの取組事例について紹介された。

ソーシャルワークの展開過程において、SONAS セッションは職員間の情報共有、計画立案、利用者への介入により意味を持たせていく上で有効であるように思う。今後、DT 導入前後の比較検討、DT そのものと既存のソーシャルワークの何が違うのか、DT の他領域での汎用の可能性、また DT の普及が進まない背景といったことが課題として挙げられた。そのためにも本テーマを「背景」、「目的」、「方法」、「結果」、「考察」といった枠組みの中で捉えていくことにより、今後の取り組むべき事柄がさらに見えてくるように思う。

(文責 森川洋)

DT(ダイバーショナルセラピー)における sonas セッションの実践

表1 DT アセスメントシート

オーストラリアでは、「老いることは楽しむことであって、耐えることではない」という言葉(1998年「高齢化するオーストラリアの国家戦略」の主意書より)に代表されるように、すべての人が主体的に生きることを楽しむという前向きな思想がある。

ダイバーショナルセラピー(以下、DT)もその考え方が反映されたものであり、オーストラリアの高齢者施設、障害者施設、病院、刑務所でも導入されている。

一方日本では、従来社会福祉施設には、与える側(介護者)と受ける側(利用者)に分けて考える傾向があり、相互主体として成立していない。

		DTアセスメントシート		
入居/利用者氏名【		】年齢【		】男・女【
生活エリア【		】 記入者		
お生まれ	西暦	年/大正・昭和	年/平成	月 日
生まれ地都		どんなところ?	郵便番号	
子ども時代の印象や思い出 がむ言の語など				
長く住んだところ、印象に残っている人や場所				
大人になってからの印象や、主な仕事/職業/家業				
得意なこと 好きな趣味 興味のあること	P:過去			
	C:現在			
大切なもの等				
人間関係	<input type="checkbox"/> 一人である方が好き <input type="checkbox"/> グループである方が好き <input type="checkbox"/> どちらも好き <input type="checkbox"/> どれも好きない <input type="checkbox"/> 友人、気の合う人			
願望 何がしたい? 行きたいところ、会いたい人は?				
現在の状況	身体的			
	認知的			
	感情的			
	社会的 地域との関係等			
家族関係	夫・健在 / 死別 / 離婚等 子ども / 人 / 子供を亡くした経験が / ある・ない / > / 孫・ひ孫 / 人			
	家訪問頻度 / 最もよく訪問する人			
入所理由は介入の動機	<input type="checkbox"/> 本人の希望 <input type="checkbox"/> 家族のすすめで了解 <input type="checkbox"/> 不承意で拒否的 <input type="checkbox"/> 職員として把握していない			
多く見られる表情や気づき 特異すべきこと	明るい・笑顔・おなか・受容的・攻撃的・拒否的・不満・怒り・悲しみ・あきらめ・無表情 ☆特異すべきこと			
日本DT協会 / 開発				

日本でもオーストラリアと同じ理念で活動している特定非営利活動法人・日本ダイバーショナルセラピー協会 (The Diversional Therapy Association of Japan) がある。ここで行われている活動については、今後期待される内容が多くある。

その内容には、「事前調査→計画→実施→事後評価」へとプロセスを踏み課題の改善へと繋げている。

このプログラムの重要な点は、展開までの対象者へのアセスメントを十分に行い理解している点にある。

表1にあるDTアセスメントシートは、対象とする方の情報をこのシートに作成していく。

対象者の氏名から生まれ故郷・人間関係などを必要に応じて記入していくシートである。聴き取りもあえて行うのではなく、対象者が何気なく語った言葉や家族から伺ったことなどを記入して完成させていくようである。

この表で着目したい点は、“どんなところ？”として都会、海辺、山や川の記入する点や“人間関係”についても一人であるのが好きから友人、気の合う人と多様に記入できる点にある。

このシートを活用しDTプログラムを展開している。

DTの特徴的なプログラムには、以下のものがある。

① コミュニケーション・プログラム (写真1)

赤ちゃん人形などを利用して、呼び覚まされた「世話する意欲」や「愛情の記憶」が能動的な行動を生み出し、他の人との会話や笑顔を生み出していく。乳児の実物に近づけた人形を使い高齢者の若い日々を回想して頂き、自分がとても輝いていた時代から生活へのアプローチを行う。

写真1 「対象者とコミュニケーションを取るためのワゴン車」



写真2 「センサリールーム」



②センサリールーム（写真2）

スヌーズレン¹を応用しお香やアロマオイル等を使用して嗅覚へ心地よさを与え、ヒーリング曲を静かに流し聴覚に安らぎを与える。さらに、淡い色の電飾やミラーボールを使用して視覚への働きかけ、柔らかいクッションを敷き、より触覚によるリラックス効果が出る場を設定することで感情への刺激を行っている。スタッフもリラックスしながら対象者の微妙な変化を見逃さずに関わる。

③環境的アプローチ(写真3)

近くの公園や施設の敷地内などに新緑のある空間をキャスティングし対象者と散歩や体操などをして空間を楽しみ、森林浴や日光浴を楽しむなど自然環境をテーマにしたプログラムである。

④sonas セッション（写真4）

音楽と会話をベースに回想、運動、遊び、五感への刺激、笑いなどの要素を、設定したテーマにそって40分程度のセッションに組み込むものである。一人一人に焦点を当てながらコミュニケーションし、クライアントは楽しさ、心身の活性、能動的感情や行動、自己表現などを体験する。

写真3「環境的アプローチ（DT ガーデンより）」 写真4「sonas セッション展開の様子」



sonas セッションでは、座席にも関係性の良し悪しがあり対象者の席の位置にも考慮を行う。そして、対象者を絞り（8人前後）内容を決めていく。ただし、その他関心を持つ方々への参加を拒むことがない点にも優れたプログラムであることが感じられた。

sonas セッションは、創作的活動として現在デイサービスやデイケアで行われている活動と共通点の多い活動である。

¹ スヌーズレンとは、オランダのエーデという町にある知的障害を持つ人々が住む施設、ハルテンベルグセンターで生まれた活動とその理念を言います。～中略～スヌーズレンの語源は2つのオランダ語、スニッフレン<クンクンとあたりを探索する>、ドゥースレン<ウトウトくつろぐ>から造られた造語であり、「自由に探索したり、くつろぐ」様子を表しています。どんなに障害が重い人たちでも楽しめるように、光、音、におい、振動、温度、触覚の素材、こんなものを組み合わせたトータルリラグゼーション～中略～日本スヌーズレン協会ホームページより(2014.3 確認)

メンバーについては、DT アセスメントシート（表1）を使用する。

介護老人保健施設Gのsonasセッションは次のようであった。

開始時間近くになると利用者が個々に集まる。活動内容に先ほど模造紙をハサミで切った紙を散りばめて盛り上がる。この時の利用者の喜び方や笑顔は作られているのではなく、自ら笑い楽しんでいることが感じられた。

表2 「ソナスセッション計画表(一例)」

		作成日：〇〇年 〇月〇〇日 () 作成者 ◇△ □▽作成	
テーマ		昭和20年前半の日本の故郷山間部の夕暮れの春	
実施日時	場所	年 月 日 (関係職員で話し合い決定する)	○△特別養護老人ホーム
参加スタッフ		DTワーカー1名 介護職員2名 ボランティア1名	
参加する入居者 (ニーズ&心身情報)		参加者名 ○○ □□さん, △△ ○○さん, □□ ▽▽さん, △△ ◇さん, ○○ □□さん, ○◇ △さん, ◇ △さん, □ ○○さん	
テーマの目的		若き日の利用者の時代背景や季節に合った雰囲気を想定する場所や四季を考慮し作成する	
ストーリー		所謂シナリオ的なもので、始まりに各自に名札を付ける音楽を流す。途中必ずお茶の時間を設け、ストーリーにあったお菓子とお茶等を用意する。ストーリーの構成を行い終結近くになると、決まった音楽や踊りで徐々に解散を行う	
準備するもの		その都度必要な演出効果、音楽その他	
購入するもの		模造紙、花、お菓子、お茶類	
制作するもの		風景、土手の雰囲気などの絵を事前に製作しておく	
予算・経費		年度予算に計上する	
予想されるリスク		転倒しやすい方;○◇ △さん, ◇ △さん, 誤嚥がある方;□ ○○さん	

sonasセッションを通じて職員同士の連携が、利用者との笑談し利用者自身に共感を持つことに繋がっていた。

このことが、チームでの問題解決をスムーズにし、個々の職員を技術的・精神的にサポートし、より質の良いサービス提供に繋がる。

今回観察者として、参加し利用者・職員を目をいきいきさせて取り組む姿をみた。計画から実施までの緻密な準備の結果、職員も利用者も楽しめる活動となっていた。緻密さとしては、参加利用者の席割を行い利用者同士の不快やトラブルを取除くことはプログラムに大切なこととして調整を行っていた。プログラム中、参加してこない利用者への介護やかかわりも、ほかの介護職員と連携して行っていた。

職員同士の情報交換、共通理解がかかせないsonasセッションを行うことで、職員同士

の連携する力が高まったように感じられた。

今後の課題として、sonas セッションを取り入れていない福祉施設との日中活動の比較検討を行うことで、より詳しく職員間の連携する利点と利用者にとっての利点について、比較検討する必要があると感じた。

発表後、フロアより概念整理の必要性やDTを展開する上での位置づけについて、今後の調査が必要ではないかとの意見を頂いた。発表に未整理な部分や報告の不十分さを吐露していたことは否めない。今後の調査や発表は、皆さんより頂いた貴重なご意見を受け止めさらに研究を深めたいと思いました。

(報告者 岩本義浩)

出版企画の報告

「健康社会をつくる5つの活動」(仮)と題して今夏の発刊を目指しております。執筆予定者には、2月に(株)サインライフ企画より正式に執筆依頼を送付しております。スケジュール的に厳しいところもあるかもしれませんが、どうかご協力をお願い申し上げます。

出版企画委員会 杉田秀二郎

事務局からのお知らせ

1. お詫び

前回、一部の皆様に今年度会費を二重に請求してまいりました。誠にご迷惑をおかけしましたこと、改めましてお詫び申し上げます。

2. 会費3年以上未納について

以下の方(敬称略)は、23、24、25年度の会費が未納です。未納の場合、退会扱いとなりますので、ご注意ください。

森山良典 後藤拓 三谷泰子

3. 平成25年度会費納入のお願い

毎年会費の納入についてご協力頂きありがとうございます。今年度会費の納入がまだお済みでない方は、同封の払込票にてご入金をお願いいたします。

4. 平成25年度退会届

平成26年3月31日(月)までにご提出ください。